

もくじ				
パ	ハ	オ	ラ	の <small>ことば</small> 言葉
.....				2
<small>びとく</small> 美德	で	<small>もんだい</small> 問題	<small>かいけつ</small> 解決	
.....				3
クイズ.....				
9				
プラスチック・スクリーンショー.....				10
ぬり絵 <small>え</small>				
.....				11
み	ん	な	の <small>しゃしん</small> 写真	
.....				12

ひるの

星

No. 255

ほごしや
保護者のページ

13

A top-down view of several hands of different skin tones and ages, reaching in from the edges of the frame to form a circle around the central text. The hands are positioned as if they are about to clasp together or are already holding something in the center. The background is a dark, textured surface, possibly a carpet or floor.

だれ
「もし誰かが
あなたに

ふせいこうい
不正行為や

ふとう あつか
不当な扱いを
しても、

ただ
その人を直ちに

ゆる
許しなさい。」

アブドル・バハ



美德で問題解決

9月のある日曜日の午後でした。お母さんは洗たく物をたたみながら、家の中がいつもより静かなので、何事もなければと思っていました。すると突然、バタンと大きな音がして、お父さんとお母さんの部屋から悲鳴と言い争う声が聞こえてきました。お母さんがその現場に行ってみると、ベッドの上のままごとのティー・セットが散らかっていて、紫のジュースをかぶったアニサが座って泣いていました。アニサとシャラの大好きなぬいぐるみと人形にもかかっていた。シャラはアスマとリアズの上に乗かって、二人の顔を引っかきながら、髪の毛を引っ張っていました。二人の男の子はそれを払いのけながら、互いにつかみ合いをしていました。モナは部屋の片隅で何事もないかのように椅子に座って宿題をしていました。

「ここで何をしているの？」と、お母さんが大声で言いました。みんな自分がしていたことを止めて、一斉にお互いを非難し始めました。

「静かにしなさい！」と、お母さんが再び大声で言いました。そしてモナの方に向いて言いました。

「モナ、これは一体どうなっているの？」

「知らないわ、お母さん。この子たちなんか見たことないもん。.... 私は一人っ子なんだから。」と、モナはお母さんの方に向けて不真面目に返事して、再び宿題の方に向かいました。お母さんはため息をつきました。



「分かったわ。それじゃ、一人ずつ、ききましょう。...アスマ、一体どうしたの？」

「リアズと俺はマリオのゲームをしていたんだけど、俺の番なのにリアズが欲張って



「譲らなかつたんだ！」と、アスマが答えました。

「ちがうよ！」と、リアズが口をはきんで、「俺の番だったんだ！アスマがゲームを一人占めしようとしたんだ！」するとシャラが跳び上がって大声で言いました。

「二人はゲームの取り合いになって、アニサとシャラのところに転がりこんで、グレー

プ・ジュースをこぼして、私たちのティー・パーティーを台無しにしたのよ！」

「そうよ。お母さん、見て！アニサのかわいそうなウサギちゃん、白くて、ふわふわだったのに、ピチャピチャの紫になっちゃったのよ！！」と、アニサが泣き声で言いました。

「ほら、みんな、私のベッド・カバーを見てごらん！」と、お母さんが大声で言いました。

「誰も、ここに入ってくる許可をもらってないでしょ。バハオラが言われているのよ。許可なしで他の人の家に入っちゃいけないって。部屋だって同じでしょ。」

「だって、私たちの部屋よりこの方が涼しいんだもの。」とシャラが言いました。二人の男の子もモナも賛成してうなずきました。

「でも、こんなに散らかしてしまっ。私、他のところで勉強するわ。」とモナが言いながら、そっと自分の本を拾い上げました。二人の男の子も急いで、こっそりとモナについて部屋から出ようとしてしました。

「ちょっと待ちなさい、みんな！」と、お母さんが厳しい声で言いました。

「モナ、いくつかタオルを濡らして持って来て。リアズとアスマはゲームを片づけて。シャラとアニサは私のベッドの上にあるものを急いで片づけなさい。ベッド・カバーにシミがつかないように直ぐ洗うからね。ぬいぐるみと人形も洗



ってあげる。その後で、みんなここに^{もと}戻って^{ゆか}床に
^{すわ}座って、こうなったことについて^{はんせい}反省しましよ
う。」子供たちはみんな^{だま}黙って^{かた}片づけ^{はじ}始めました。
モナはタオルを^も持って^き来て^{よご}汚れを^ふ拭き^と取るのを
^{てっだ}手伝いました。大体片づいたところで、お母さ
んを^{かこ}囲んで、みんな^{ゆか}で^{すわ}床に座りました。それからお母さんが^{はじ}始めました。



「モナ、あなたのノートと鉛筆でメモを取ってね。さて、みんなにきくけど、
こうなってしまったのは何の^{なん}美德が^{びとく}欠けていたんでしょう？」子供たちは^{みん}みんな
^{たが}互いに^{かお}顔を見^みあわせて^{かた}肩を^{かた}すくめました。

「それでは、^{じゅうじゅん}従順という^{びとく}美德から^{はじ}始めたら、どうかしら？ この^へ部屋に入^{はい}って
^{あそ}遊ぶのに^{きよか}許可があるのは、みんな^し知っていたはずで。それが^{だれ}誰も^{きよか}許可をもら
っていなかったでしょ。だからモナ、まず^{したがじゅん}従順をメモして。...他に^{ほか}何か^{なに}ある？
アスマとリアズがケンカするようになったのは、どうしてなの？」

「アスマが^{よくぼ}欲張りだから！」と、リアズが^{おおごえ}大声で言いました。

「リアズの方が^{よくぼ}欲張りだからだよ！」と、アスマが^い言い返^{かえ}しました。

「女の子たち、この二人には何の^{なん}美德が^{びとく}欠けていたと思う？」と、お母さんが
ききました。「そうねえ、二人とも^{ふたり}自己^じ中心^{ちゆうしん}で、^{じぶん}自分のこと^{かんが}しか考^{かんが}えていなか
ったと思うわ。」と、^{おも}シャラが^{いけん}意見を言いました。

「そうなのよ、^む無我と^{きょうりよく}協力という^{びとく}美德が^か欠けていたのよね？モナ、^{じゅうじゅん}従順の次
にこの二つの^{ふた}美德を^{びとく}書き^かこんで。女の子たち、あなたたちには何の^{なん}美德が^{びとく}欠け
ていたのかしら？」シャラとアニサは互いに^{たが}顔を見^{かお}あわせて^{かた}肩を^{かた}すくめました。

「もちろん！^{じゅうじゅん}従順だよ！二人ともお母さんの^へ部屋に^やグレープ・ジュースなん
か^も持って^き来て^{あそ}遊んではいけなかったんだ！」と、リアズが^{おおごえ}大声で言いました。

「そうね、たしかに。.....おぼえておいてね、^{おんな}女の子たち。グレープ・ジュ
ースは、なぜか^{かなら}必ず^{ゆか}！床にこぼしてしまうものなのよ。お願いだから、あなたた
ちの^{あそ}ティー・セットで^{みず}遊ぶときは、^{つか}水しか^{わたくし}使^へわないでね。それから^{わたし}私の^へ部屋に

は絶対に！グレープ・ジュースを持ち込まないように！」と、お母さんが警告しました。「他には何の美德が欠けていたと思う？シャラが男の子たちにしていたのを、私、はっきり見たのよ。そこには何が欠けていたのかしら？」

「でも、お母さん！」と、シャラが金切り声で言いました。「二人が私たちのティー・パーティを台無しにして汚してしまったのよ。私、どうすれば良かったの？黙って見ているというの？」

「忍耐、許し、そして相手を理解すること……などの美德が、あんたには欠けていたのよ、シャラ。」と、モナが知ったかぶりの笑みを浮かべて言いました。

「そうよ、シャラ、あなたにはそれらの美德と、もう一つ、もっと平和的になることも必要なのよ。あなたがしたことはとても暴力的だったのよ。二人の顔の引っかき傷を見てごらん！」と、お母さんが言いました。

「そうだよ、シャラ。その爪を切れよ。頼むから！！」と、リアズが叫びました。「その爪は凶器だよ！」

「だって、あんたたちと暮らしていたら、これは必要なのよ！」と言って、シャラはリアズにあかんべーをしました。

「シャラ、アブドル・バハがこんなとき、そんな方法で解決したと思う？」と、お母さんがききました。

「アブドル・バハはいつも、誰でも許したのよ。たとえ相手がどんな悪いことを何度しても……知ってたでしょ。アブドル・バハが言われるには、『もし誰かが

あなたに不正行為や不当な扱いをしても、その人を直ちに許しなさい。』そして、たとえ相手が十萬回反対しても、その相手を許すようにとね。

モナ、続けて書いて。忍耐、相手を理解すること、許し、……そして平和的になること。」





「さて、モナ、次はあなたの番よ。あなたの場合、何の美德が欠けていたんでしょう？」と、お母さんがききました。

「私？私、何も悪いことしてないわ！ただ自分のことをして、ここに座っていただけなのに。」と、モナが不満そうに言

いました。

「そう、でも、世の中には沢山の悪いことが起きているけれど、知らんぷりをしているの？自分の問題ではないと言っているの？」と、お母さんがききました。

「私が思うには、思いやりという美德が悲しいかな今の世の中には欠けている気がするのよ。女の子たちがグレープ・ジュースを持って部屋に入って来たときも、男の子たちが言い争いを始めたときも、もし、あなたが彼らに注意していたら、たぶん、こんなことは起きなかったと思うのよ。」

「うん、そうかも知れないね。」と子供たちみんな、賛成しました。

「それから、最後に考えられる美德は、和合でしょうね。.....

さて、モナ、これまでメモした美德を言ってみてくれる？」

「従順、無我、協力、忍耐、許し、相手を理解すること、平和的になること、思いやり、そして最後に和合。」全部読み上げたところで、モナが言いました。

「わあ、九つの美德よ！いい数ね！」みんなも喜んで手を叩きました。

「さあ、この一週間、みんなでこの九つの美德を実行するようにがんばりましょう。」と、お母さんが言いました。

「九つの美德だって？お母さん！」と、リアズが叫びました。「一つでも大変なのに！」



「わかった。みんな、それぞれ一つを選んで、一週間その一つを真剣に実行するのはどうかしら？」と、お母さんが提案しました。

「それはいいね。……よし、協力するのを一生懸命がんばってみるよ。」と、リアズは決心しました。

「私は許すのにするわ。これまでにないほど許すように、がんばってみるわ。」と、シャラが言いました。

「私は弟や妹にもっと思いやりを持つようにがんばるわ。」と、モナが言いました。

アスマが続けて、「俺もこれまであまり思いやりが足りなかったので、もっと思いやりを持つようにしようと思う。」と言いました。

お母さんがほほ笑んで言いました。「みんなよく決心したわね。お母さんはうれしい。」

「アニサはどうしたらいいの？」と、アニサが戸惑いながら言いました。

「従順にしたら？……お父さんとお母さんの言うことをよく聞いて、それに素直に従うのよ。いい？」

「わかった。」と答えて、アニサは跳んだり跳ねたりしました。

「それでは、私は忍耐に挑戦するわ。みんな私に忍耐をさせるのが上手だから。最後に言っとくけど、美德もほどほどにすること。何でも度が過ぎると上手いかないからね。そう言えば、みんな家の中に長くいすぎたわね。今日はいい天気だから、みんな外に出て新鮮な空気を吸って身体を動かすといいわね。ローラー・スケートでもしたらどうかしら？」

「やったー！」と叫んで、子供たちは我先にとローラー・スケートを持って外に出て行きました。



クイズ

- 1 こども 子供たちは最初どこで遊んでいましたか？

- 2 だれ なに 誰が何をしてから問題が起きたのでしょうか？

- 3 モナがノートにメモするように言われたのは何でしたか？

- 4 こども か 子供たちに欠けていた最初の美德は何でしたか？

- 5 おとこ こ か 男の子たちに欠けていた美德は何でしたか？

- 6 シャラに欠けていた美德は何でしたか？

- 7 モナに欠けていた美德は何でしたか？

- 8 こども 子供たちみんなに欠けていた美德はいくつありましたか？

- 9 こども 子供たちは一週間これらの美德をどうすることにしましたか？

- 10 さいきん 最近あなたがケンカしたとき、何の美德が欠けていたと思いますか？

どうですか？全部答えられましたか？

こた 答えは保護者のページのお話の後にあります。



プラスチック・スクリムショウ

(スクリムショウは、その昔、^{むかし}船乗りたちが^{ふなの}動物の骨や象牙に^{どうぶつ ほね ぞうげ}釘の^{くぎ}ようなもので^{ずあん きざ}図案を^{えが}刻んで描いたものです。)

ざいりょう 材料

とうめい
透明なペットボトル

はさみ

くぎ おお
釘か大きなピンか針

フェルトペンかクレヨン

ティッシュ

テープかのり

つく かた 作り方

ペットボトルの平たい部分^{ぶぶん す}を好きな^{かたち}形に^{きと}切り取る。

きと
切り取ったプラスチックに^{はり}針などで^{ずあん きざ}図案を刻む。

きざ
刻みにティッシュで^{いろ}色をすりこむ。

きざ
刻みだけに^{いろ のこ}色を残して、^{ひょうめん ふと}表面は拭き取る。

いろもぞうし
色模造紙に出来上がったスクリムショウをテープか、^はのりで貼りつける。

スクリムショウのまわりをクレヨンとかフェルトペンなどでさらに^{ずあんか}図案化する

のも^{たの}楽しいし、スクリムショウをネックレスやブレスレット

にするのも^{たの}楽しいでしょう。



ぬり絵

てん ぼんごうじゅん
点を番号順につなげて.....

こども ちきゅう まも え かんせい
子供たちが地球を守ろうとしている絵を完成して、

いろ
色をぬりましょう。

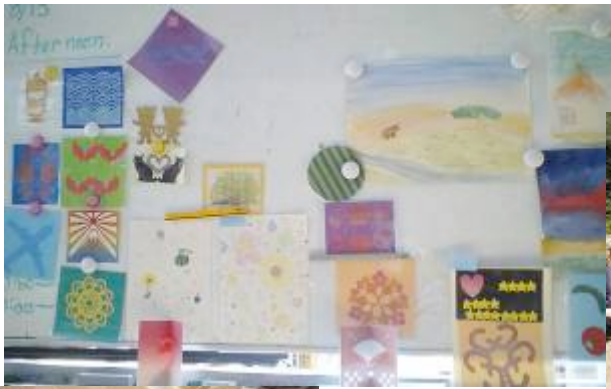




みんなの



しゃしん
写真



保護者のページ

子供は、よくケンカをしたり、いたづらをしたりします。そんなとき、「ケンカは止めなさい!」とか「そんなこととしてはダメ!」と言って、ただ止めるだけでなく、子供自身で問題を解決させるようにしたらどうでしょう。

子供が問題を抱えているとき、いつも保護者がそのそばにいるとは限りません。保護者がいなくても、子供が自分で問題を解決できるようになるには、日頃からその方法を練習しておく必要があります。問題に直面したら、子供が自分で、問題に欠けていた美德を見つけ出すように手伝ってあげましょう。そしてその美德で問題が解決できるか一緒に確かめましょう。子供自身の問題だけでなく、子供の周りの問題も解決できるようチャレンジしてみましょう。そうすれば子供は自分だけではなく、世の改善に貢献するように成長していくでしょう。

「世の改善は、清らかで立派な行為と、称賛に値する礼儀にかなった行動を通して達成できる。」
バハオラ

「どの子も世界を照らす光となり得る。....」しかし、それは正しい導きなしでは達成できません。子供に内在する「計り知れない価値ある宝石」を見つけ出すように手助けするのは、保護者としての私たちの責任です。もし、この崇高な責任を怠れば、「厳格な神」の前でその責任を問われるでしょう。次の引用文で宝を美德としたら、人類にどんな利益をもたらすのか、子供と一緒に瞑想してみるのもよいでしょう。

「人間を計り知れないほど高価な宝石に富む鉱山と見なせ。教育のみがその宝を放出させ、人類にその利益を享受させることができる。」

バハオラ



クイズの答え

- 1) お父さんとお母さんの部屋 2) アスマとリアズがマリオ・ゲームの取り合いになつてケンカし始めた 3) 従順 4) 美德 5) 無我、協力 6) 忍耐、許し、
相手を理解すること、平和的になること 7) 思いやり 8) 九つ 9) 九つ

びとく なか ひと えら
の美德の中から一つを選んで、それを
しんけん じっこう 10 れい あいて
真剣に実行する 10) 例...相手を
りかい
理解すること



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、
luanahirahara@hotmail.com に送ってください。

ひるの星

N o . 255

2013年9月発行

ひるの星をカラー印刷するには <http://hirunohoshi.weebly.com/>
のリンクにアクセスしてください。

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、バウデンカービー真己、グレン・ロウ

協力

物語：平原ルアナ、

和訳：平原静志

写真：平原ルアナ、

絵：平原ルアナ、カーティス・ラリー、スティーヴ・パシヤル、平本かおり、サナ・マ

ツオブ

ピアニスト：エリカ・マホニ

テクニカル・アドバイザー：グレン・ロエ

監修：平野祐一